

令和5年度 岩美中学校 学校経営方針

学校経営の目標

「持続可能な よりよい地域の学校づくり」

目指す学校の姿

○生徒一人一人の自己実現と地域貢献を学ぶ場をめざす

生徒が「通いたい」・・・喜んで登校し、満足して下校する学校

保護者が「通わせたい」・・・安心・安全・信頼できる学校

地域が「応援したくなる」・・・学校教育活動のために協力したくなる学校

教育活動の基本姿勢

①安心・安全 ②かかわりあいと笑顔 ③受容と愛情

学校教育目標

「みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる」を体現する生徒の育成

<めざす生徒の姿>

- (1) みずから学ぶ（課題意識をもち主体的に学習する）生徒
 - ・ 「Iwami 10 Skills」の育成を目指し、主体的、対話的で深い学びを実践することによって、各教科の学習内容と将来社会で役立つ資質能力の涵養をバランスよく図る。
 - ・ 自らの課題意識を持ち、友と共有しながら学習に取り組み、学びあう学習集団を育成する。
- (2) みずから鍛える（強くたくましい心と体を備える）生徒
 - ・ 日常において自分自身を磨くためのよい習慣を継続することで、成功体験を重ね、少しずつ大きな課題に挑戦できる心と体を養う。
 - ・ 自分の感情を律し、コントロールできる力やスキルを身につける。
- (3) みんなと生きる（他者の気持ちや立場に寄り添えることのできる）生徒
 - ・ 相手の立場を理解し、相手に寄り添いながら行動できる。
 - ・ 意見が違っていても、主張をききながら最適解を見つけ出すことができる。

めざす教師の姿

- (1) 率先垂範、ふるまいや姿勢で子供を感化できる教師
 - ・ 教師の「凡事徹底」「率先垂範」「生徒と一緒にやること」が生徒を育てる原動力になる。
 - ・ 教育活動ひとつひとつの意味を理解しながら課題に取り組むことができる。
- (2) こどもを大切にし、敬意を払い、愛を持って導く教師
 - ・ 明るく、笑顔で、すすんで挨拶できる。
 - ・ 生徒を肯定的に捉え、ほめて伸ばす。時には毅然とした態度で指導ができる。
- (3) 自分に厳しく、他人に優しく謙虚に学び続ける教師

- ・ 一人だけで課題解決しようとせず、学校組織の中で自分の役割を責任持って果たすことで協働しながら課題解決できる。

具体的な努力点

(1) 学力向上

- ① 基礎・基本の確実な定着に向けて、辛抱強く学習や課題に取り組む態度を育み、それらを活用して主体的に考え、判断し表現する力や学ぶ意欲を育成する。
 - ・ 人工知能の発達で社会が大きく変わろうとしている中、これからの時代を生きる生徒に必要な「Iwami 10 Skills」の習得を意識した授業を実践する。
 - ・ SDGS を核にした総合的な学習の時間の探究活動化を図るとともに、教科連携の授業にも積極的に取り組む。本校の強みである ICT 機器を効果的かつ積極的に活用する。
 - ・ フォーサイト手帳の活用能力を高め、家庭学習の質的向上を図る。
 - ・ 読書習慣の定着や読書活動の活性化に向けて図書室を有効活用する。
 - ・ 英語力の向上（英検など資格の取得者の増加）
 - ・ 3 年生にリーディングスキルテストを実施して本校生徒の読解力の分析・検証を行い教育活動に還元する。
- ② 協働的な学びの中で、個人として、また集団としても伸びていく学習態度を育成する。
 - ・ 校内研究会、授業研究会を核に、「Iwami 10 Skills」の⑤問題解決力について重点を置いた授業の構築を推進する（一人一研究授業など）
 - ・ 班での話し合いや、考えをまとめたり発表したりする時間を確保する。
 - ・ 人の考えを知ることにより、自分の考えがさらに深まるような場面設定を工夫する。
- ③ 個に応じた支援（指導）を充実する。
 - ・ 数学科における少人数指導を効果的に運用するとともに、ICT 機器を活用した個別最適化学習に取り組む。

(2) 生徒指導

- ① 生徒一人ひとりに対する受容と深い愛情に基づいた指導を実践する。
 - ・ 教職員間の情報交換や家庭訪問等により、生徒の置かれている状況の把握や共通理解に努める。
 - ・ 生徒とコミュニケーションをとり、早期発見・早期対応及び個に寄り添った指導を心がける。
- ② 教職員間、学年間で共通理解を図り、凡事徹底できる生徒、規範意識のある生徒を育成する。
 - ・ 我々が範を示すとともに、生徒会とリンクした活動を推進する。
 - ・ 辛抱や我慢をさせる場面を設定する。
 - ・ インターネット、ゲームなどのメディアとの健全な関わりかたの指導には、特に注意する。
- ③ 教育相談活動の充実を図る
 - ・ いじめは絶対に許さないという共通認識のもと、普段の様子をよく観察し、早めに積極的に相談活

動を行う。

(3) 道徳教育

- ① 道徳の教科化をふまえ、教育活動全体で道徳的实践力を育成する。
 - ・ 教育活動全体で行う心の教育が、道徳の時間で深化統合されることを意識するとともに、その評価方法について研鑽する。
- ② 道徳の時間を積極的に公開する。(学年全員で道徳授業を実践する)
 - ・ 参観日等の公開日には、道徳の授業も組み込む。

(4) 人権教育

- ① とともに認め合い、支え合い、高め合う学級経営を推進する。
 - ・ 先生や仲間から大切にされているという実感が多く持てるようにいろいろと工夫し、自己肯定感を醸成する。具体的な例としては生徒に「くん、さん」付けを徹底する。
- ② 教育活動を通じて人権意識の向上と人権感覚の醸成を図る。
 - ・ 相手の立場に立って考えることの習慣化を図る。
 - ・ 情報の取り扱いに係る留意点やモラルについては、今日的な課題として、また人権侵害防止の観点から日常的に指導する。(新型コロナウイルス感染症等)
- ③ 一人一人の教育的課題を明確にした上での学力保障に尽力する。

(5) 特別支援教育

- ① 生活の自立と社会参加の基盤づくりに向けて全職員の共通理解と関与を進める。
 - ・ 家庭や地域社会との連携を図るとともに、交流及び協働学習を推進する。
- ② 通常学級に在籍する生徒も含めて障がいの程度に応じた教育内容の充実を図る。
 - ・ 個別の指導計画、教育支援計画を作成し、全職員共通理解のもと合理的配慮を行い、支援にあたる。
 - ・ 日常的な見取りに基づく生徒個々の特性や対応の共通理解を図り、他の生徒の関わり方を指導する。
 - ・ 特別支援学校や関係機関との連携を進めるとともに(特別支援学級のセンター的機能の活用)、特性を有する生徒に対する対応スキルを向上させる。

(6) 健康教育

- ① 「自ら鍛える」生徒の育成を通じて、生涯を通じて健康で安全な生活を送ることができる資質や能力を育成する。(新しい生活様式に適応する)
 - ・ 生活振り返りアンケートを通じて家庭との連携を図り、基本的な生活習慣を確立、維持する。
 - ・ 安全を確保するための行動のパターンを習得させるとともに、臨機応変に判断し行動できる力を養う。

- ・ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を実施する。
- ・ 発達段階に応じた性教育を推進する。
- ・ 新しい生活様式、行動様式の中で自分と他人の健康を考え行動できる意識を持たせる。

② 給食指導と関連させた食育を推進する。

- ・ 毎月の献立表や給食便りを有効活用し、給食を残さずに食べる指導を工夫する。

③ 体育の授業だけでなく、学校生活全般にわたって体力づくりを励行する。

- ・ 個々の生徒の実態に応じた指導と評価を実践し、体力面・精神面合わせて粘り強さを育成する。

(7) 環境・福祉教育

① ものを大切に使い、節電・節水を実行できる生徒を育成する。

② JRC 活動や縦割り班活動を核に、自然体験活動や奉仕活動を通じて身の回りの環境問題や福祉に対する意識を喚起する。

(8) 進路指導・キャリア教育

① 正しい考え方を培うとともに、立志の精神を育成する。

- ・ どんな仕事にも「よろこび」や「つらさ」、「社会に果たしている役割」があることを理解させ、一面的な見方にならないように指導する。
- ・ SDGs を核とする総合的な学習の時間の学びを通じてこれからの生き方を考えさせる。

② 将来の就労を見据えた指導を推進する。

- ・ 協調性や情報を活用する力、また見通しを持って行動する習慣や判断力、辛抱や我慢できる心を教育活動全体を通して育成する。
- ・ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得に向けた支援を推進する。

③ 「ふるさと先生に学ぶ」「高校の先輩に学ぶ」「職場体験学習」「高校訪問」「面接演習」等「若鷲フォーラム」の体験的な活動を推進する。

(9) 情報教育

① GIGA スクール構想において1人1台端末を活用することにより学習活動の一層の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める。

② オンライン学習、オンライン授業をさらに研究、推進する。

③ ICT 機器をはじめ情報に関するルール、情報モラルの指導を徹底し、道德、学活などあらゆる機会を捉えて実施する。

(10) 学級活動・生徒会活動・学校行事

① 特別活動は「みんなと生きる」に向けた自治的集団育成への核となる活動ととらえ、内容の充実や活動

の活性化を図る。

- ・ 生徒にまかせる部分を積極的につくとともに、そのための教員の意図的な仕かけや準備を水面下で工夫する。
- ・ リーダー層の育成を図る。→3年生は2割、1・2年生は1割から1割5分を目指す。
- ・ アイチェック（これまでのQ-Uテストに替わるもの）等を有効活用し、親和的な人間関係づくりを推進する。

② 表現力を育成する。

- ・ 特別活動の様々な場面も表現力を育てるよい機会と考え、委員会連絡や全校集会での発表などは原稿の棒読みではなく、臨機応変に味わいのある話し方ができるように導く。

(11) 部活動

① 心身の調和的発達を見据えた「素直な心とやる気」を育成する。

- ・ 競技スポーツにおいては、「このチーム、この子に応援したい、勝たせてやりたい」と思われるような態度、マナーを醸成する。
- ・ 質の高い集団の育成に努力し、より高い目標に向かって努力できる生徒を育成する。

② 異学年交流を通しての良好な人間関係を促進する。

- ・ 先輩、後輩、あるいはレギュラー、補欠等の関係の中で、我慢や葛藤なども体験させながら、学年を超えた健全な人間関係を構築する。

③ 生徒数の今後の減少を見据え、部活動の再編を継続する。